

〔発言者〕 田村寿美江

〔発言年月日〕 1985 年

〔生年、被爆地、職業など〕 広島の中中高等女学校卒業生。

〔内容〕

今から四十年前に在籍した学校は、この世に確かにあったのである。その証拠に、そこで共に学び、共に励み、共に動員に行き、共に傷つき、共に苦しんで死んでいった多くの友がいる。

〔注〕

山中高等女学校の『追悼記』からの抜粋。原爆が投下された広島市では、被爆後 1 カ月ほど経った 9 月から 10 月にかけて、多くの学校が授業を再開していった。その中であって、原爆の痛手から立ち直ることなく、廃校となった学校がある。山中高等女学校はその 4 校のうちの 1 校だった。「原爆さえなかったら…」それは、母校を失った卒業生に共通の思いではなかっただろうか。

（広島女子高等師範学校附属山中高等女学校原爆死没者追悼文集編集委員会編、『追悼記——一冊の貯金通帳番号控より』1985 年所収）